

5 南薩地域の特性を生かした稼げる果樹産地の育成

施設きんかん産地の維持支援

成果の要約

- 1 きんかんの円滑な園地データベース化と園地流動化支援によるブランド産地維持に向け、園地マップと情報のDX化を進め、活用方法について随時検討した。
- 2 全園調査等の結果を検討等で活用し、生育に応じた栽培管理指導ができた。
- 3 重点農家に対してヒアリング、個別巡回を行い、技術や経営改善について検討できた。

1 対象

- (1) 南さつま農協果樹部会
 - ア 施設きんかん栽培農家 48 戸
 - イ きんかん重点農家 6 戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) ブランド品目であるきんかんの生産・販売において、高齢化による廃作者の増加や後継者不足による栽培面積の減少、また収穫・選果選別・防除作業等の労働力確保が年々困難になっている。そこで、産地維持に向けた園地流動化・マッチング支援に取り組むにあたり、関係機関で園地や生産者情報の共有を図る必要がある。
- (2) 生産性、及び品質向上を図るため、障害果実発症要因解明と抑制対策検討を進める必要がある。
- (3) 新規就農者の栽培技術レベルが低いため、単収の引き上げや品質向上による所得の向上を図る必要がある。

3 活動の内容及び成果

- (1) 園芸振興協議会果樹部会のメンバーでの定期的打合せ
 - ア 果樹全般の生産振興対策についての打合せは、園振協果樹技術部会メンバーで定期的（毎月1回）に行った（写真1）。

きんかんについては、振興方策、技術課題の整理及び対策検討を行い、活動を展開した。また、アンケートのとりまとめを行い、経営継承等について検討した。



写真1 果樹定例会の様子

- (2) 全園調査の実施
園振協メンバーで年3回（春のビニル被覆の有無、着果確認調査、収穫前調査）園地調査を、JAで作成した紙媒体の園地マップに基づき実施し、調査結果の整理や連動した園地情報の活用方法について検討した（写真2）。



写真2 全園調査の様子

(3) 定点調査

加温 1 か所，無加温 3 か所で 8 月から，2 週間おきに果実肥大等の生育調査を行った(写真 3)。その結果を取りまとめ，随時，講習会等での栽培管理指導に活用した。

課題となっている障害果実（異常黄化・奇形果）の発生は少なかった。



写真3 定点調査の様子

(4) 検討会の開催

6 月 19 日，9 月 3 日，11 月 15 日にきんかん春姫現地検討会(写真 4, 5)を開催し，それぞれ開花期前後の温度・かん水管理による着果対策，摘果やかん水，芽かきの徹底による果実肥大促進対策，収穫前の着色促進対策など，その時期における栽培管理の重要性について説明し，管理の徹底を図った。



写真4 検討会の様子（資料説明）



写真5 検討会の様子（現地での検討）

(5) 重点農家の育成

就農 5 年以内の農家はじめ，技術習得支援が必要な 6 名に対して，具体的な支援策の検討及び実践に取り組んだ。個別ヒアリング(写真 6)では，前年度の取り組みの反省と，実績をもとにした新たな栽培課題を設定し，重点農家の園地を巡回し，個々に応じた技術習得支援に取り組んだ。



写真6 個別ヒアリングの様子

4 今後の課題

- (1) 園地・技術情報 DX 化と活用支援
- (2) きんかん障害果実（異常黄化・奇形果）及び落果防止対策等による単収の引き上げ
- (3) 重点農家の技術習得支援

5 担当した普及職員（○はチーフ）

○新村